

活動報告書

分科会 A

報告者氏名： 井上賞子

所属： 松江市立意東小学校

貸与機器 Pepper、iPadMini

【対象児の情報】

- ・ 学年 5年
- ・ 障害と困難の内容 複数回答可（複数回答の場合には主たる障がいは◎をとってください）
 - 自閉症スペクトラム症 ◎
 - 読み書き障がい（ディスレクシア、ディスグラフィア）
 - 注意欠損多動性障がい（AD/HD）

【活動進捗】

当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

- ① 自立して学べる手だてを身に着ける
- ② 学習したことを活用する場を広げる

実施期間 令和2年4月～8月

実施者 井上賞子

実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

- ・ 自閉症・情緒障害特別支援学級在籍5年生
- ・ 鉛筆を持った経験もなく、読める文字が1文字もない状態で入学してきたが、読み書きについては、これまでの魔法の取り組みの中で身に着いてきている。しかし、依然として滑らかさには課題が残り、特性上の困難は強い。
- ・ 多動傾向もあり、集中の継続が難しく、集団の中では聞き落としも多い。
- ・ 言われたことには真面目に取り組めるが、自分から「こうしたほうがいいんじゃないか」という提案や視点は出てこない。
- ・ 語彙が少なくイメージを描いて理解することが苦手なため、勘違いすることが多く、またそれに気づきにくい場合がある
- ・ 情報が増えると整理の仕方がわからず、新しい内容の学習に取り組む際は受け身になりがち
- ・ 知識は増えてきたが、「してもらおう」ことが多い環境の中、日常生活で生かしていないものも多い
- ・ 量感が弱く、机上で答えられる課題でも実物に投影していくことが難しい

活動の具体的内容

- ① 自立して学べる手だてを身に着ける
- 動画教材を活用して、学習のイメージを持ってから授業に参加するスタイルを習慣づけていく
 - ・ 事前学習を行うことで、見通しをもって交流学級での授業に参加する機会を持つ
 - ノートテイクの方法を身につけることで、情報を整理し参照しながら解決していく体験を重ねていく
 - ・ 「調べる→まとめる→蓄積する→参照する」というサイクルを活用できるようにしていく

☆今年度からスタートした交流級での「理科」での取り組み

○イメージを持って学習に向かう

- ・次の単元に入る前にプレイリストを作成
- ・複数の番組から同じテーマのものを集めてリストしておく
- ・隙間の時間や朝学習などの時間に視聴
- ・新しい語彙にふれたり、学習内容をイメージすることをねらう
- ・見終わったら「どんな言葉が出てきた?」など、できるだけ短い言葉で答えられる質問をなげかける→**答えられなくても正解できなくてもいい**こちらからは「・・だね」と確認する
- ・同じテーマの番組を複数視聴することで、ゆるやかに情報を重ねていく



○学習したことを整理して記録する

- ・一斉指導を受けた後、OneNoteにまとめていくことで情報を整理するとともに参照しやすくする
- ・板書は交流級担任に撮影してもらっておく
- ・板書やノート・教科書を見ながらOneNoteにまとめなおしていく
- ・後から振り返りやすいように画像をたくさん入れておく

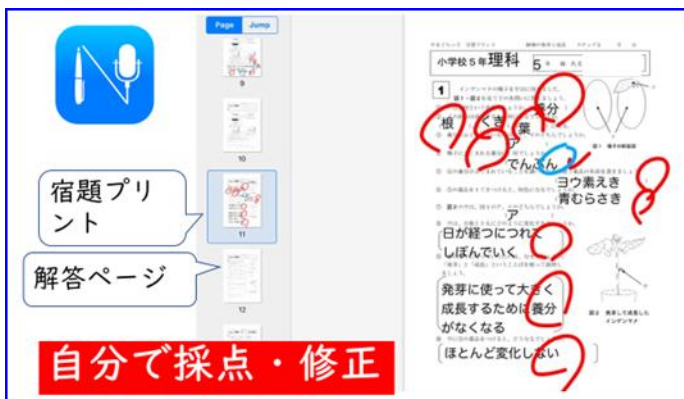


○確認しながら定着を目指す

- 授業中に**
- ・プリントをOneNoteにはりつけ、小テスト取り組み、分からなかったところはノートを参照して直す
 - 教師が丸付け
- 宿題で**
- ・MetamojiNotesにワークを読み込んでおき、困ったときにはOneNoteと画面を切り替えて確認しながら取り組む
 - 1人で完結
 - ・NHKforSchool視聴



※OneNote はカテゴリーの階層があるので、プリントの課題を「調べて」解決する際に使用した



※MetaMojiNote は1ページが独立しているので、自分で解答ページと照らし合わせて復習するのに使用した

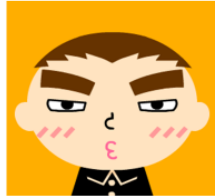
②学習したことを活用する場を広げる

○表示を手掛かりに、できることを増やしていく「表示があれば大丈夫」

・「表示から手順を整理する→動画を作成→動画を見ながら実行→振り返り→再度実行」をすることで、表示を手掛かりにすれば1人で作れるという自信を広げていく

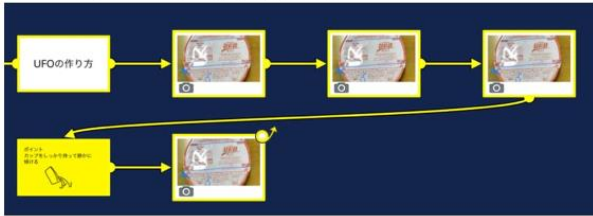
- ・「作り方」の表示程度の内容を読み取る力は問題ない
 - ・しかし、体験につながっていない言葉も多いと思われた
- ↓
- ・手順に整理してからやってみるを繰り返す

2回は挑戦!



インスタントシリーズは

- ・表示を手順に分解してカードを作成
- ・読み上げて動画にする→動画を見ながら家で実施
- ・1回やってから注意点を追加



家庭科シリーズは

- ・授業で作成を体験し写真撮影
- ・手順に分解してカードを作成
- ・読み上げて動画にする
- 動画を見ながら家で実施



○予測と実測を繰り返しながら身の回りの物の長さを体感していく「測ってみよう～長さ編～」

・身の回りの大きなものや小さいものを「予測→実測」して記録に取ることを繰り返す中で、「だいたいこのくらい」という見通しを持ちやすくする

測ってみようセット

- ・ミニノギス
- ・5mスケール



「できる」が日常につながっていない

1L=1000ml
の換算はできる

4cm=0.04m
の換算はできる

学習した知識での操作はできる

500mlのペットボトルを見て「6Lくらい」と答える

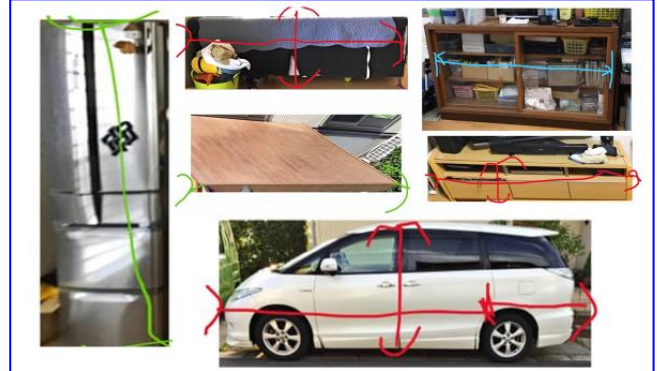
花壇の横幅の単位を問われて「cm」と答える

自分の周りの世界を理解する学びになっていなかった

☆測ってみたよ「小さいもの」



☆測ってみたよ「大きいもの」



※OneNoteに「予想」「結果」の項目のあるテンプレートを作り、記録していった

○活動の中で課題を再発見していく

- ・ 選択の活動の中でみつけた「洗濯のコツ」に「少しはなして干す」を挙げたのをきっかけに、「どうして離してほすのかな？」という課題を探った。
- ・ 最初の予想では、「洗濯ものに水がついているから、はなして干すと洗濯ものが当たらないから乾きやすくなる」と、「ぬれているものがあつると乾きにくいからではないか」と考えており、水蒸気については思いついていなかった。
- ・ 予想たてた上で、1年生のカップについて水滴を観察して「乾く」について考えていく中で去年の理科での学習した「水蒸気」の存在を思い出した。写真に考えを手書きしていき、大切な言葉を打ち込んでいた。

・洗濯の活動から出た疑問

洗濯機を回すとき・ほすとき・たたむとき

少しはなして干す

どうして、はなして干すのかな？

予想
洗濯物に水がついているから、はなして干すと洗濯物が当たらないからかわきやすくなる

・「乾く」を調べてみよう

かっぱについていた水は、空に昇っていった

蒸発だ!!

それって去年理科でやったけど、覚えている?

・「乾く」を調べてみよう

目に見えない水の粒は?

水蒸気!!

・インターネットでも調べていき、一番わかりやすいと思った情報を OneNote にはり、さらに自分の言葉と絵でわかったことをまとめていった。

「どうしてはなして干すのか」をまとめよう

どうしてぬれているものをはなすと乾きやすくなるの?

乾くと言うのは、洗濯物の水分が水蒸気となって蒸発するから。はなすと蒸発しやすくなる

どうして離す蒸発しやすくなるの?

風が水蒸気のためった空気を飛ばしてくるから

・「どうしてはなして干すのか」をまとめよう

洗濯物が乾く

水蒸気

洗濯物の水分が蒸発することで、洗濯物周辺の空気中の水蒸気が増える

湿度の高い空気が飛ばされる

風が吹く

風が吹くことで再び湿度の低い空気が、洗濯物の周辺に存在するようになる

ネット調べて

自分でまとめて

・対象児の事後の変化

①について

- ・今年度からスタートした交流級での理科だったが、スムーズに参加し、内容についても理解できている。
- ・理科があった日の振り返り日記には「理科をがんばった」ことを頻繁に書いていて「簡単だった」と自信をのぞかせる記載も増えている。

今日は、理科をがんばりました。大雨と強風の勉強をやりました。強風はりんごとか鉄とうが倒れるようです。理科が簡単でした。

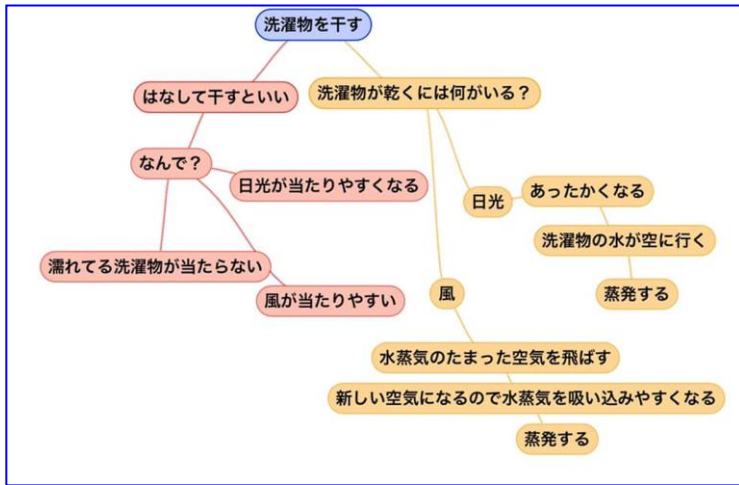
②について

表示があれば大丈夫

- ・表示があるものは自分で作れるという見通しを持てるようになってきている。
- ・複数回同じものを作ってみたことで、手順書がなくてもできるものも増えている。
- ・家族に喜んでもらったり、自分の好きなものが作れたりすることで、意欲が継続している。

測ってみよう

・予想→実測を繰り返したり、自分の体を基準にして考えたりする中で、長さに対して「どのくらいか」を考えようとする姿が見られた。



活動の中で課題を再発見していく

・学習の終わりにマインドマップでまとめたところ、「日光であったまるといいかなとはなんとなく思っていたけど、風のことは考えてなかった。水蒸気が風でいなくなるから離れたほうがいいんだとわかった」と話すなど、洗濯という身近な行為の中の科学的な事象に気づいていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・事前学習でのイメージ化と事後学習での情報の整理を学習のパターンにしたことで、「自分の学びやすさ」を自立して遂行していけるようになったのではないかと
- ・宿題を活用して学校での学習を自分の生活の中で生かす取り組みを行ったことで、自分の身の回りの事象への関心や理解が広がったのではないかと

自立して学べる手だてを身に付けることを目指した取り組みにかかわって

・理科はテストも通常学級で、他の子と一斉に受けているが、2学期末までの時点で平均が9割を

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
点数	90	96	100	100	90	75	100	95	85	90	92.1

【理科の業者テストの点数 ピンクはまとめの回】

超え、理解の状況が良好であることが伺えた。

・また、学習した直後ではないまとめのテストにおいても90点と高得点が取れていることから、学習したことが日数を置いても定着した理解につながっていると思われる。

・理科のプリントに取り組む際や返却されたテストを見直す場面で、OneNoteを開き、自分で階層になっている情報をスムーズにたどって、情報を参照する姿が見られた。



学習したことを活用する場を広げることを目指した取り組みにかかわって

・家で作ったジャムが焦げてしまった際、手順を見直すことで、自分で解決策を見つけ、再挑戦で成功させたり、表示のまま作るころから、「キムチリゾットってあるんだって、それにしてみようかな」と、自分の好みにアレンジすることを始めたりと、「知る」で終わらず考えて行動にうつす姿が見られた。

「家で作ったらふたがとんでいちごがこげた」と言ってきたので、手順書を見直した

- 「あっ、ふたしてない」
→気づかずふたをしていた
- 2回の過熱のどちらでこげた?
→「2回目。最初は大丈夫」
- どうする?
→「ふたをやめて
2回目の時間を減らす」



クリア!